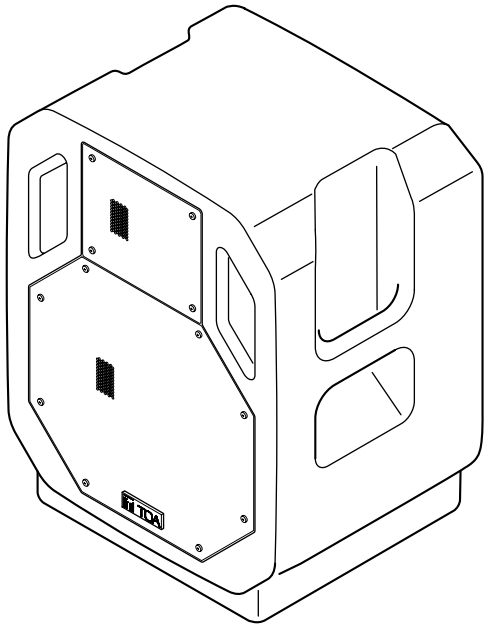
TOA

取扱説明書

ワイヤレス
パワードスピーカー　KZ-100WS



ご注意

本機は防滴仕様ですが、屋外に常設しないでください。
雨水が機器の内部に侵入して、故障することがあります。

このたびは、TOA ワイヤレスパワードスピーカーをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
正しくご使用いただくために、必ずこの取扱説明書をお読みになり、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

TOA 株式会社

目　次

安全上のご注意 …… 3

概　要 …… 5

特　長 …… 5

使用上のご注意 …… 5

各部の名称とはたらき
　後　面 …… 6

接続する
　接続例1：ワイヤレスマイクミキサーと組み合わせる …… 8
　接続例2：ワイヤレスマイク、有線マイク、および外部機器と組み合わせる …… 8

ワイヤレスマイクを使う …… 9
　周波数を設定する …… 10
　トーンスイッチで混信を防ぐ
　　トーンのはたらき …… 11
　　トーンスイッチを設定する …… 11
　チューナーユニットを増設する …… 12

有線マイクや外部機器を使う …… 13

スタンドに取り付ける …… 14

故障かな？と思ったら …… 15

仕　様 …… 16
　付属品 …… 16
　別売品 …… 16

安全上のご注意

- ご使用の前に、この欄を必ずお読みになり正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お読みになったあとは、いつでも見られる所に必ず保存してください。

⚠ 警告　誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

設置・据付をするとき

指定外の電源電圧で使用しない
表示された電源電圧を超えた電圧で使用しないでください。
火災・感電の原因となります。

禁　止

電源コードを傷つけない
電源コードを傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたりしないでください。
また、コードの上に重いものをのせないでください。
火災・感電の原因となります。

禁　止

不安定な場所に置かない
ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。
落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。

禁　止

スタンドへの取り付けは２人以上で行う
1人で行うと、落下したり、転倒したりして、けがの原因となります。

強　制

スタンドの脚を最大に開き、安定した場所に置く
開きかたが足りないと、倒れて、けがの原因となります。

強　制

組み合わせは指定のものを使用する
スピーカースタンドはKZ-100STを使用してください。
指定以外の組み合わせで使用すると、落下して、けがの原因となります。

強　制

電源のアースをとる
アース線を取り付けないと、漏電のとき、感電の原因となります。

アース線を接続せよ

使用するとき

万一、異常が起きたら
次の場合、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いて販売店にご連絡ください。
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
- 煙が出ている、変なにおいがするとき
- 内部に水や異物が入ったとき
- 落としたり、ケースを破損したとき
- 電源コードが傷んだとき（心線の露出、断線など）
- 音が出ないとき

電源プラグを抜け

内部を開けない、改造しない
内部には電圧の高い部分があり、ケースを開けたり、改造したりすると、火災・感電の原因となります。
内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。

分解禁止

故意に水をかけない
本機は防滴構造になっていますが、汚れを落とすなどの目的で故意に水をかけないでください。
火災・感電の原因となります。

禁　止

雷が鳴ったらさわらない
雷が鳴り出したら、電源プラグやアンテナ線にはさわらないでください。
感電の原因となります。

接触禁止

⚠ 注意

誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

設置・据付をするとき

ぬれた手で電源プラグをさわらない

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。
感電の原因となることがあります。

禁　止

電源コードを引っ張らない

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。
コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
必ずプラグを持って抜いてください。

禁　止

移動させるときは電源プラグを抜く

差し込んだまま移動させるとコードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

電源プラグを抜け

湿気やほこりの多い場所などに置かない

湿気やほこりの多い場所や熱器具の近くに置かないでください。
火災・感電の原因となることがあります。

禁　止

開梱や持ち運びは２人以上で行う

1人で行うと、落下したり、転倒したりして、けがの原因となることがあります。

強　制

スタンド取り付け時は通路などに置かない

通路など、人が足を引っ掛ける可能性がある場所には置かないでください。
落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。

禁　止

スタンド使用時は接続ケーブルの長さに余裕を持たせる

余裕がないと、足などで引っ掛けたときに、倒れてけがの原因となることがあります。

強　制

配線はアンプの電源を切ってから行う

電源を入れたまま配線すると、感電の原因となることがあります。

強　制

使用するとき

電源を入れる前には音量を最小にする

音量を上げたまま電源を入れると、突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

強　制

長時間、音が歪んだ状態で使わない

スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

禁　止

定期的に内部の掃除をする

内部の掃除については、販売店にご相談ください。
内部にほこりがたまったまま長い間掃除をしないと、火災の原因となることがあります。

強　制

電源プラグやコンセント部の掃除をする

電源プラグを差してあるコンセント部にほこりがたまると、火災の原因となることがあります。定期的にコンセント部の掃除をしてください。
また、電源プラグは根元まで差し込んでください。

強　制

お手入れの際、長期間使用しない場合の注意

お手入れのときや長期間本機をご使用にならないときは、安全のため電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
守らないと、感電・火災の原因となることがあります。

電源プラグを抜け

⚠ 注意　誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

使用するとき

製品の上に乗らない
本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。
倒れたり、落ちたりして、けがの原因となることがあります。

禁　止

使用中はスピーカー直前に人を立たせない
大音量により、聴力障害の原因となることがあります。

禁　止

概　要

本機は100 Wのパワーアンプを内蔵したワイヤレスパワードスピーカーです。
学校の運動会や文化祭、夏祭りのイベント、展示会場でのプレゼンテーションなど屋外での拡声に最適です。
別売のワイヤレスマイクやワイヤレスマイクミキサーと組み合わせて使用すると、複雑な配線が不要となり、簡単な操作で使用することができます。

特　長

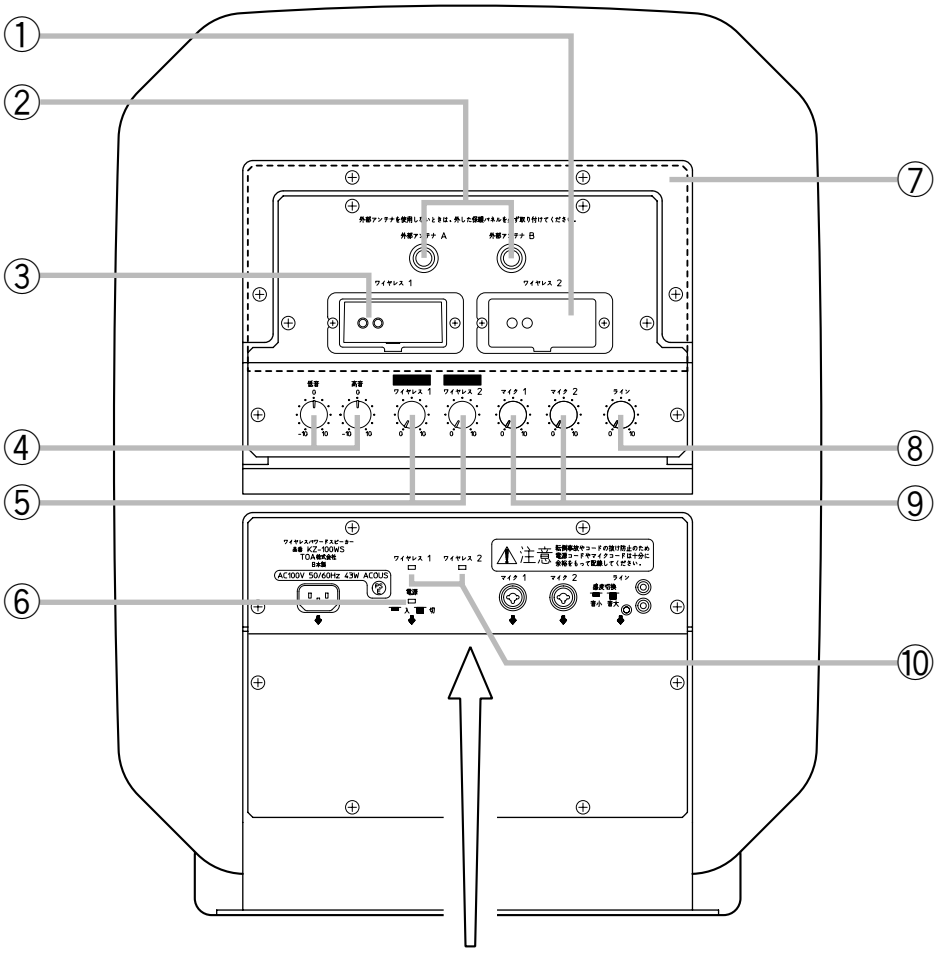
- 後面に保護パネルを取り付けている場合は、小雨時でもお使いいただけます。
  （JIS C0920保護等級：IP22 *1に準拠）
  *1 人の指を危険な箇所へ近づけられないよう保護されていること、また、本機を鉛直に対して15 ˚以内で傾斜したときに鉛直に落下する水滴によって正常な動作に影響がないこと、という条件を満たしています。
- 独自の増幅方式を用いた効率のよい、100 Wの大出力アンプを内蔵しています。
- スピーカーは2ウェイ方式を採用し、明瞭で、迫力のある音を提供します。
  高域は高能率ドライバーユニットにより高い明瞭性を、低域は大型マグネット採用の30 cmウーハーにより、大出力に対応した迫力のある音場を提供します。
- 800 MHzダイバシティ方式*2のワイヤレスチューナーとアンテナを内蔵していますので、わずらわしい配線をせずに、音切れの少ない状態でお使いいただけます。
  *2 ダイバシティ方式とは、アンテナ回路が2系統あり、受信感度の良いアンテナを自動的に選択し、電波を受信する方式です。受信不良による音切れを少なくする効果があります。
- 別売の外部アンテナも使用できます。
- 本機専用のスピーカースタンドKZ-100STを使用すると、安定した設置ができます。

使用上のご注意

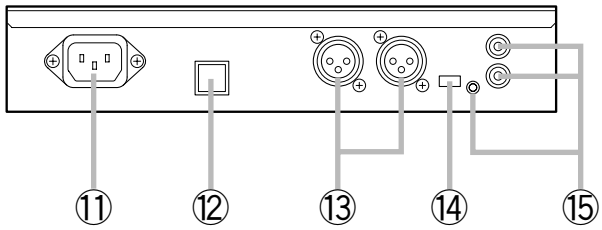
- 付属の電源コードは、本機専用品です。本機以外の機器に使用しないでください。
- ハウリング*3が起きるときはマイクをスピーカーから離すか､音量を下げてお使いください。
  また、スピーカーを話者よりも聞き手方向に向けて設置すると、ハウリングが起こりにくくなります。
  *3 スピーカーから出た音をマイクが拾ってしまい、その音をまたアンプが増幅し、さらにスピーカーが拡声するという一種のループ状態が生じて、キーンという音がすること。
- 大きな音（過入力）が入力されると、音が歪むことがあります。使用中にこのような症状が現れたときは、音量を小さくしてください。
  また、直射日光などにより機器内部の温度が異常に上昇すると、出力が出なくなることがあります。このときはいったん電源を切り、音量を下げてから、もう一度電源を入れなおしてください。
- お手入れは、必ず電源を切ってから乾いたやわらかい布で拭いてください。特に、雨の中で使用した後は、よく拭いてください。また、ひどい汚れは中性洗剤をしみこませた布を使用してください。

各部の名称とはたらき

［後面］

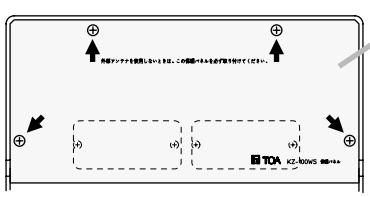


矢印方向から見た図



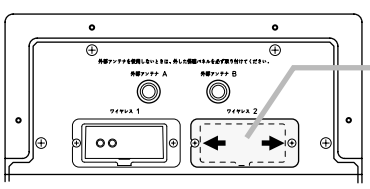
［保護パネルおよびチューナーユニット収納部カバーの外しかた］

※ 矢印のねじを取り外します。



保護パネルを取り外す場合

- 周波数を設定するとき（P. 10）
- トーンスイッチを設定するとき（P. 11）
- 外部アンテナを接続するとき（P. 8）
- チューナーユニットを増設するとき（P. 12）



収納部カバーを取り外す場合

- トーンスイッチを設定するとき（P. 11）
- チューナーユニットを増設するとき（P. 12）

① ワイヤレス2チューナーユニット収納部
標準では空きになっています。増設するときは、別売のダイバシティチューナーユニットWTU-1820をお使いください。（☞ P. 12）

ご注意

別売のワイヤレスマイクと本機チューナーユニットのグループ・チャンネルを合わせてください。（☞ P. 10）

② 外部アンテナ端子
外部アンテナを接続するときは、別売のYW-540またはYW-550をお使いください。

③ ワイヤレス1チューナーユニット収納部
ワイヤレス1のチューナーユニットは標準で内蔵されています。

ご注意

別売のワイヤレスマイクと本機チューナーユニットのグループ・チャンネル（お買い上げ時はチャンネル呼称B11）を合わせてください。（☞ P. 10）

④ 音質つまみ
低音：低い音が左に回すと減衰し、右に回すと増強されます。通常は中央で使用します。
高音：高い音が左に回すと減衰し、右に回すと増強されます。通常は中央で使用します。

⑤ ワイヤレス音量つまみ
ワイヤレス1または2チューナーで受信したワイヤレスマイクの音量を調節します。

⑥ 電源表示灯
電源を入れると緑色に点灯します。

⑦ 保護パネル
チューナーユニット収納部と外部アンテナ端子②を雨やほこりから保護するために取り付けます。

ご注意

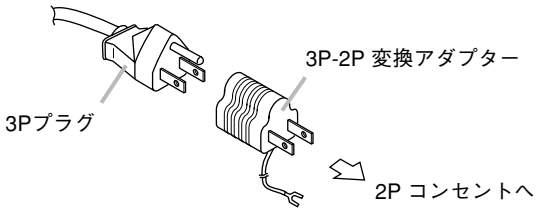
外部アンテナを使用しないときは、必ず保護パネルを装着した状態でお使いください。

⑧ ライン入力音量つまみ
ライン入力端子⑮に接続された機器の音量を調節します。

⑨ 有線マイク音量つまみ
マイク入力端子1または2⑬に接続された有線マイクの音量を調節します。

⑩ 受信表示灯
ワイヤレスマイクの電波を受信すると、オレンジ色に点灯します。

⑪ AC電源インレット
付属の電源コードを使って、AC 100 V（50 Hzまたは60 Hz）に接続します。
電源コードの先端（ACコンセント側）はアース付きの3Pプラグになっています。ACコンセントが2P差し込み口のときは付属の3P-2P変換アダプターをお使いください。



⚠ 警告

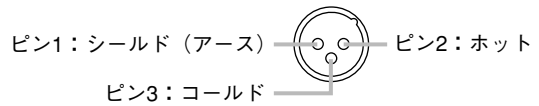
本機を使用するときは、電源コードのアースをとってください。
アースをとらないと漏電のとき感電の原因となります。
アース接続は必ず、主電源プラグを主電源につなぐ前に行ってください。また、アース接続を外す場合は、必ず主電源プラグを主電源から切り離してから行ってください。

⑫ 電源スイッチ
押すと電源が入り、もう一度押すと切れます。

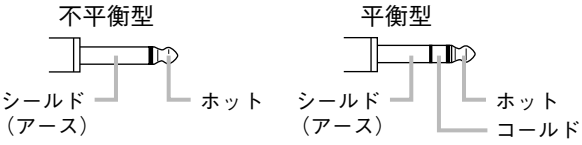
⑬ マイク入力端子
–60 dB、600 Ω、不平衡のマイク1または2入力端子です。有線マイクを接続します。XLR型、ホーンジャック共用でお使いいただけます。

使用できるコネクター

● XLR型コネクター（XLR-3-12C相当）



● ホーンプラグ

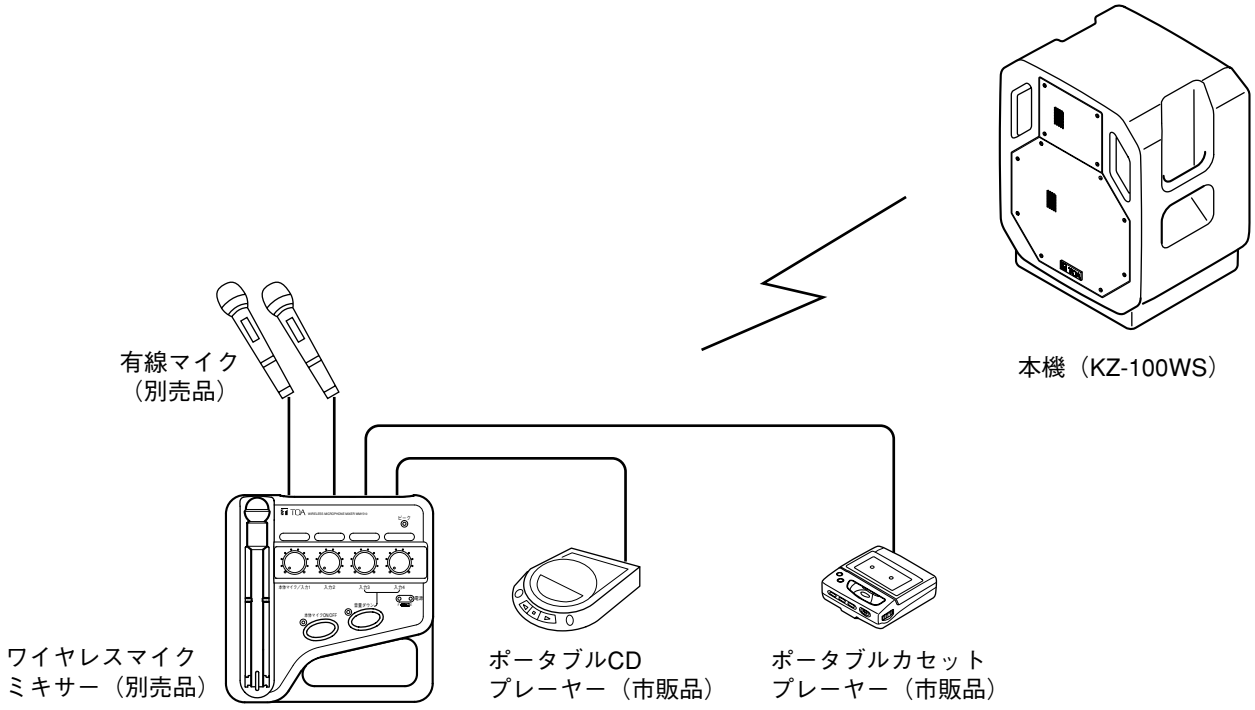


⑭ 入力感度切換スイッチ
通常は「音大（■）」で使用します。ライン入力⑮に接続された演奏機器によっては、大きな音が出て、音量つまみで調節しきれないことがあります。そのようなときに「音小（▬）」に切り換えると、最適な音量調節を行うことができます。
入力感度：「音大」（お買い上げ時）–14 dB
「音小」+5 dB

⑮ ライン入力端子
–14 dB/+5 dB *、10 kΩ、不平衡の入力です。
* 入力感度切換スイッチで切り換え
CD、MDプレーヤーなど外部演奏機器を接続します。ミニジャックまたはピンジャックを使用することができます。

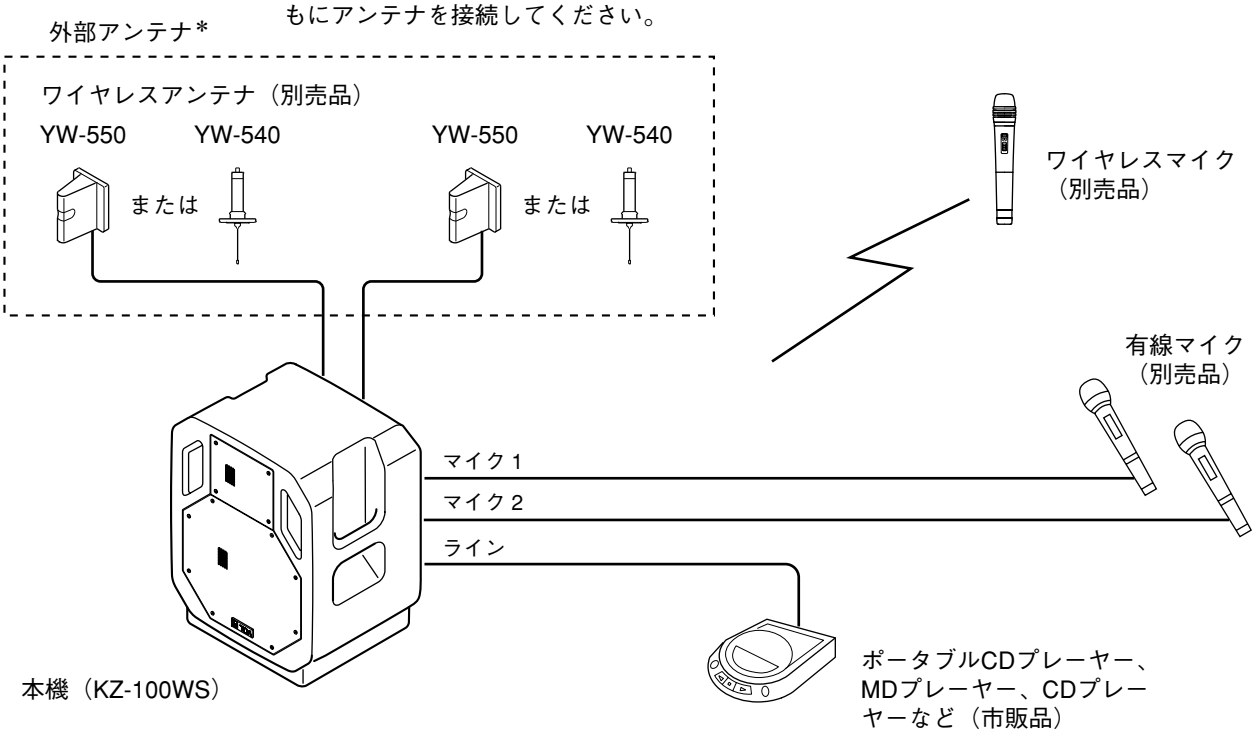
接続する

● 接続例1：ワイヤレスマイクミキサーと組み合わせる

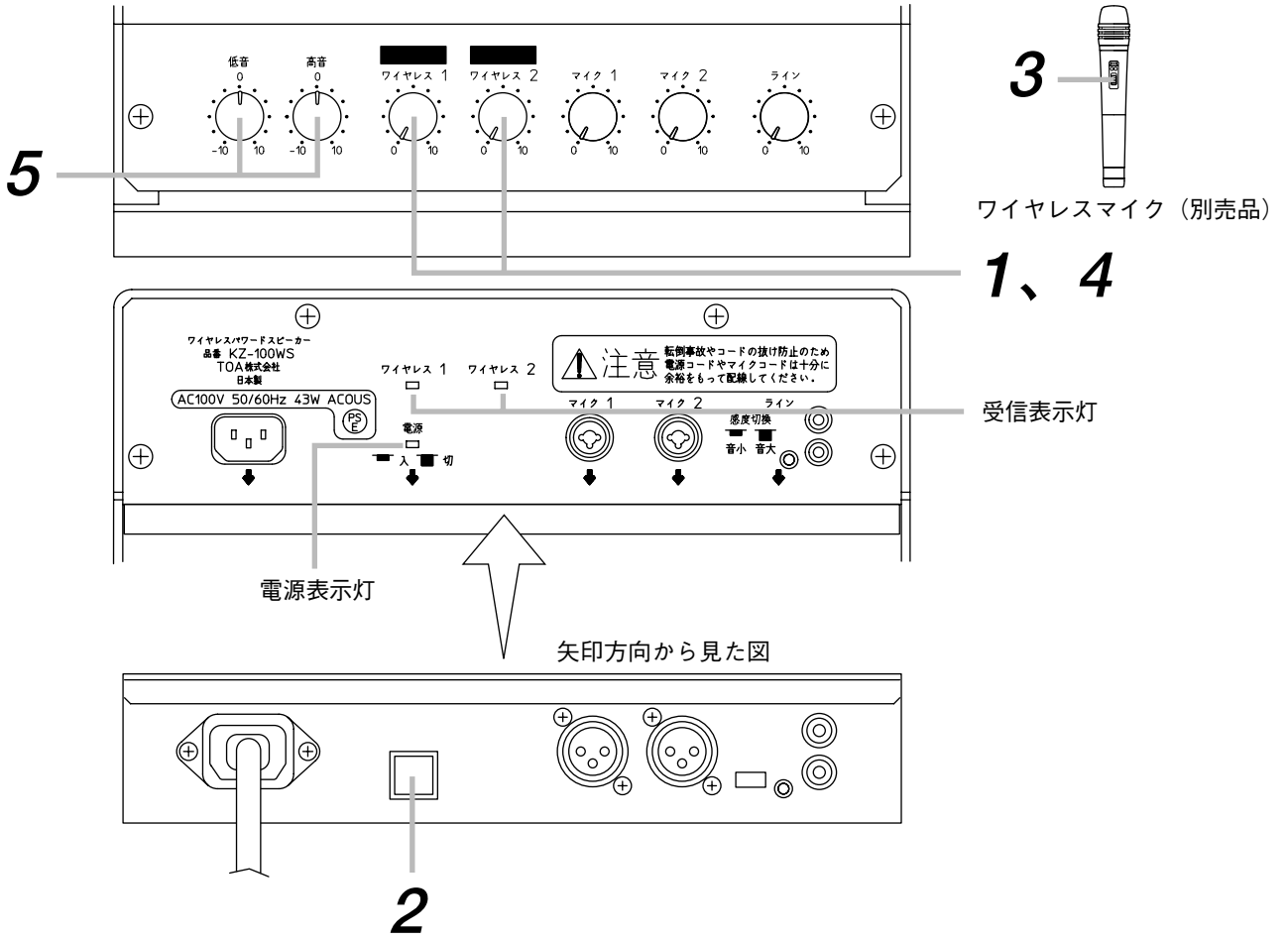


● 接続例2：ワイヤレスマイク、有線マイク、および外部機器と組み合わせる

*本機を屋内で使用する場合、デッドポイントが発生するなど良好な受信ができないときは、外部アンテナのご使用をおすすめします。外部アンテナを使用するときは、外部アンテナ端子AとBの2カ所ともにアンテナを接続してください。



ワイヤレスマイクを使う



1 すべての音量つまみの音量を絞る。

2 電源スイッチを「入」にする。
電源表示灯が緑色に点灯します。

3 ワイヤレスマイクの電源スイッチを入れる。
受信表示灯がオレンジ色に点灯します。

4 該当するワイヤレスマイク音量つまみで音量を調節する。

5 音質つまみで音質を調節する。

⚠ 警告

使用中はスピーカー直前に人を立たせないようにしてください。
大音量により聴力障害の原因となることがあります。

ご注意

- ワイヤレスマイクは800 MHz帯B型ワイヤレスマイクを使用してください。
- ワイヤレス1のチューナーユニットのグループ・チャンネルは、お買い上げ時にはチャンネル呼称B11（☞ P. 10）に設定されています。
- ワイヤレスマイク1とワイヤレスマイク2は同一グループの異なるチャンネルに設定してください。同じチャンネルにすると混信や異音の原因になります。
- 同じチャンネル呼称のマイクは同時に使用できません。
- 同一場所での同時使用は、グループ番号が同じマイクロホンに限って最大6チャンネルまでできます。（本機にはその中の2つのチャンネルを設定します。）
- 本機の電源スイッチを「入」にして、ワイヤレスマイクの電源を入れる前に本機の受信表示灯が点灯するときは、設定されたチャンネルが使用中です。他のチャンネルに変更してください。
- ワイヤレスマイクおよびチューナーユニットは、混信妨害を受ける場合、トーン周波数を変えることで影響を軽減することができます。詳しくはP. 11の「トーンスイッチで混信を防ぐ」をご覧ください。

上手にお使いいただくために

- ワイヤレスマイクと本機は3 m以上離してお使いください。3 m以内で使用すると雑音が発生したり、混信したりすることがあります。
- 2つの異なるチャンネルを同時に使用するときは、2本のマイク間の距離は50 cm以上離してください。
- 妨害電波により雑音が発生するときは、蛍光灯やパソコンなどの高周波雑音を発生する機器から、本機をできるだけ離して設置してください。
- 本機の近くで携帯電話を使用しないでください。スピーカーから雑音が発生することがあります。
- ワイヤレスマイクを移動しながら使用すると、電波の反射や干渉によって「デッドポイント」と呼ばれる急に音の途切れる場所が発生することがあります。デッドポイントを解消するためには、本機の設置場所を移動させてください。
- 設置の際は専用スタンドを使用するなど、本機の位置が高くなるようにしてお使いください。高くすることで音の明瞭性や､ワイヤレスマイクの受信感度が高くなります。

■ 周波数を設定する

本機に内蔵のチューナーユニットはあらかじめチャンネル呼称B11に設定されています。チューナーユニットを増設したり、使用中に混信妨害が発生したときには、以下の手順で、異なるチャンネルに設定してください。

1 **電源スイッチを「切」にする。**

2 **保護パネルを外す。**（☞ P. 6）

3 **周波数表をもとに、設定するグループとチャンネル番号を決める。**

ご注意

ワイヤレスマイクを同時に2本使用するときは必ず、同じグループの中から異なるチャンネルをお選びください。

［周波数表］

グループ	チャンネル	呼称	周波数(MHz)
1	1	B11	806.125
	2	B12	806.375
	3	B13	807.125
	4	B14	807.750
	5	B15	809.000
	6	B16	809.500
2	1	B21	806.250
	2	B22	806.500
	3	B23	807.000
	4	B24	807.875
	5	B25	808.500
	6	B26	808.875
3	1	B31	806.625
	2	B32	806.875
	3	B33	807.375
	4	B34	808.250
	5	B35	808.625
	6	B36	809.250
4	1	B41	806.750
	2	B42	807.500
	3	B43	808.000
	4	B44	809.125
	5	B45	809.375
	6	B46	809.750
5	1	B51	807.625
	2	B52	808.125
	3	B53	808.375
	4	B54	808.750
	5	B55	809.625
6	1	B61	807.250

［800 MHz帯ワイヤレスマイクロホンのチャンネル呼称について］

（例） B 1 1

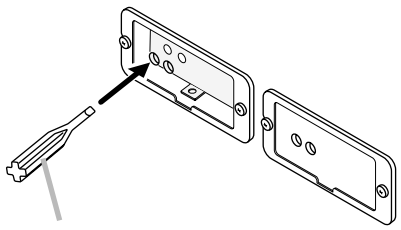
- 1：グループ内のチャンネル番号を表す。
- 1：グループ番号を表す。
- B：800 MHz帯を表す。

4 **設定スイッチの矢印をあらかじめ決めたグループ・チャンネル番号に合わせる。**

本機または増設チューナーユニットに付属の設定ドライバーをお使いください。

ご注意

増設したチューナーユニットのグループ番号はワイヤレス1のチューナーユニットと同じ番号に設定してください。チャンネル番号は、異なる番号に設定してください。

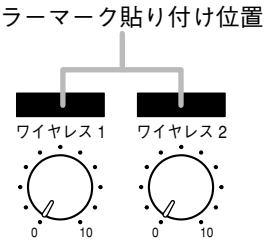


チャンネル設定ドライバー
（付属品）

5 **ワイヤレスマイクのグループ・チャンネル番号を、チューナーユニットと同じグループ・チャンネル番号に設定する。**

ワイヤレスマイクに付属の設定ドライバーをお使いください。
詳しくは、ワイヤレスマイクの取扱説明書をご覧ください。

6 **音量つまみの上部に、ワイヤレスマイクと同じ色のカラーマーク（付属品）を貼る。**



7 **保護パネルを元どおりに取り付ける。**

■ トーンスイッチで混信を防ぐ

このスイッチの設定を変更するときには販売店にご相談ください。

● トーンのはたらき

ワイヤレスマイクの電源が入っていないときや、ワイヤレスマイクの電源は入っていても妨害電波が強いときに、本機から妨害電波の音声や雑音が聞こえることがあります。
この対策として、ワイヤレスマイクの電波にトーン信号をのせて送信し、ワイヤレスチューナーではトーン信号の含まれていないワイヤレスマイクの電波は、音声を出力しないようにしています。シンセサイザー方式のワイヤレスマイクおよびチューナーユニットはこのトーン信号を3種類搭載しており、状況により切り換えることができます。

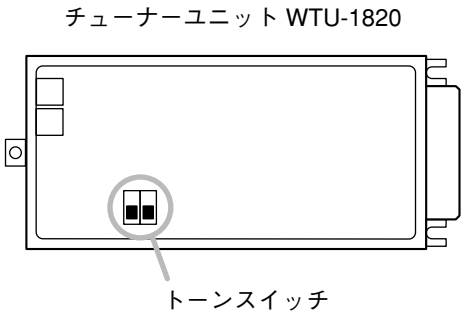
ご注意 混信が非常に強い場合は、トーン信号の周波数を変えても正常に使用できないことがあります。

● トーンスイッチを設定する

1 **チューナーユニットを引き出し（☞ P. 6）、ユニット上面のカバーを外す。**

2 **基板上の2列のトーンスイッチをボールペンの先などで設定する。**

トーン信号の周波数は、スイッチ位置により下表のように変化します。



スイッチ位置	1 2 OFF	1 2 OFF	1 2 OFF	1 2 OFF
トーン信号周波数	B1、B3グループ 32.768 kHz B2、B4グループ 32.718 kHz B5、B6グループ 32.818 kHz	すべてのグループ 32.718 kHz	すべてのグループ 32.768 kHz	すべてのグループ 32.818 kHz

3 **チューナーユニットを元どおりに収納する。**

4 **ワイヤレスマイクのトーン信号を同じ周波数に設定する。**

手順3で設定したチューナーユニットのトーン信号に合わせます。

ご注意

- トーンスイッチを切り換える際、スイッチ以外の部品には触れないでください。故障や動作不良を起こすことがあります。
- ワイヤレスマイクとチューナーユニットは、グループ、チャンネル番号およびトーン信号の周波数がそれぞれ一致しないと正しく受信できません。
- お買い上げ時はトーンスイッチの位置は1、2ともにOFFの位置に設定しています。
- この機能は、トーンスイッチのついているワイヤレスマイクとチューナーユニットの組み合わせでのみ使用できます。トーンスイッチのついていない機器の組み合わせでは、スイッチ1、2ともにOFFの位置で使用してください。

■ チューナーユニットを増設する

ワイヤレスマイクを2本使いたいときは別売のダイバシティチューナーユニットWTU-1820を追加してください。

1 **電源スイッチを「切」にする。**

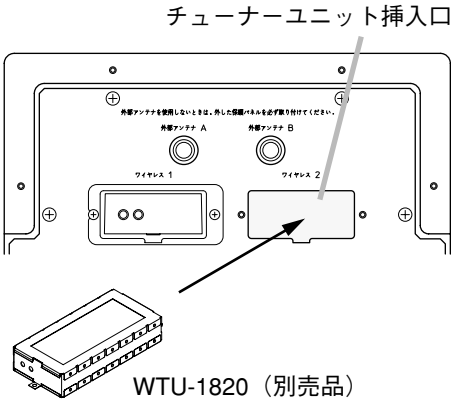
2 **保護パネルを外し、空いているチューナーユニット収納部のカバーを外す。**（☞ P. 6）

3 **チューナーユニットを挿入し、奥のコネクターに確実に差し込む。**

4 **増設したチューナーユニットの周波数を設定する。**

P. 10の「周波数を設定する」をご覧ください。

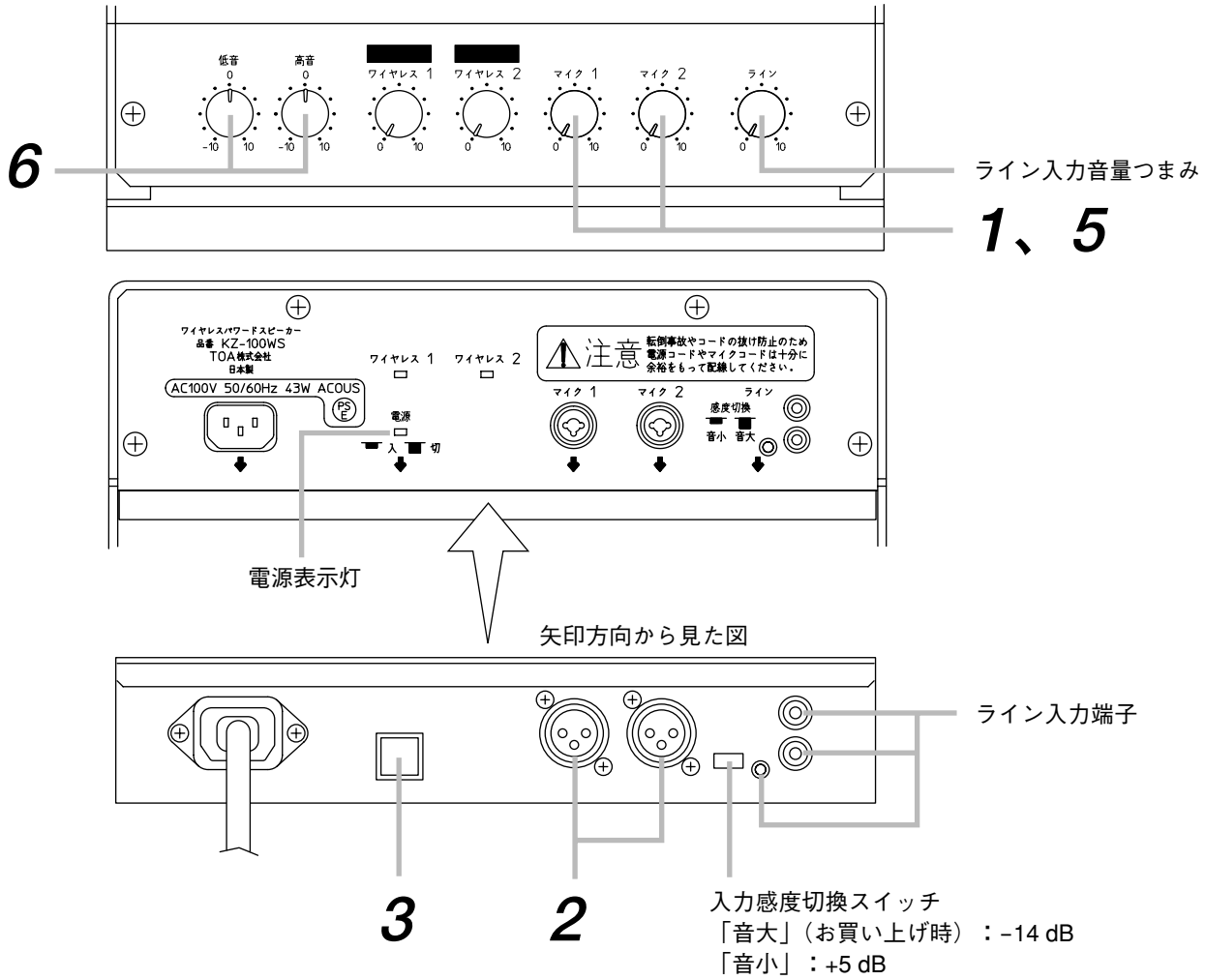
5 **外したカバーとパネルを元どおりに取り付ける。**



有線マイクや外部機器を使う

以下の手順では、有線マイクの使いかたについて書いています。
外部機器の使いかたについても、接続する入力端子と音量つまみが異なるだけで、同様の手順となります。

※ ライン入力の入力感度切換スイッチは通常「音大（ ）」で使用します。ライン入力に接続された演奏機器によっては、大きな音が出て、音量つまみで調節しきれないことがあります。そのようなときに「音小（ ）」に切り換えると、最適な音量調節を行うことができます。



1 すべての音量つまみの音量を絞る。

2 有線マイクをマイク1またはマイク2入力端子に接続する。

3 電源スイッチを「入」にする。
電源表示灯が点灯します。

4 有線マイクの電源スイッチを入れる。

5 該当する有線マイク音量つまみで音量を調節する。

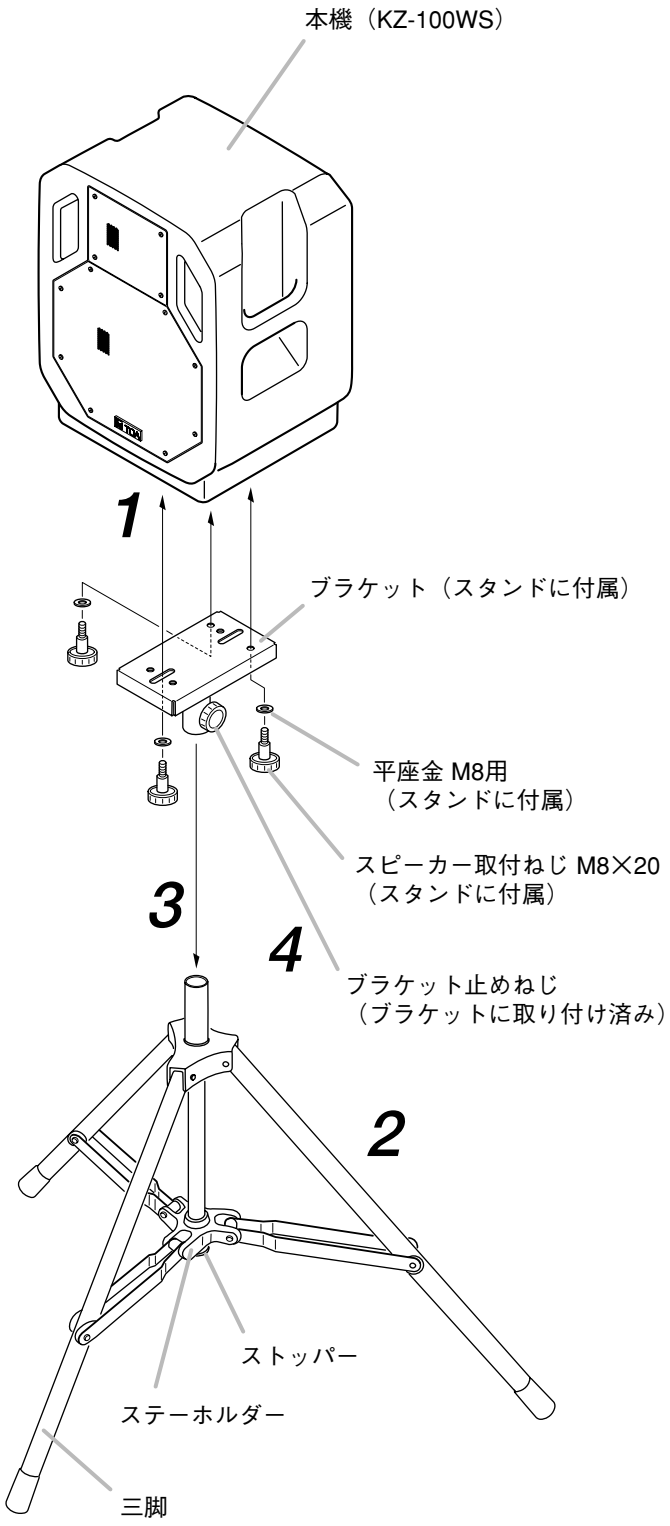
6 音質つまみで音質を調節する。

⚠ 警告

使用中はスピーカー直前に人を立たせないようにしてください。
大音量により聴力障害の原因となることがあります。

スタンドに取り付ける

別売のスピーカースタンドKZ-100STを使用します。



1 **本機の底面にブラケットを取り付ける。**

取り付けには、スピーカー取付ねじ（M8）と平座金（M8用）を使用します。

2 **スタンドを立てる。**

三脚を開き、ステーホルダーがストッパーに当たるまで下げます。

> **⚠ 警告**
>
> スタンドの三脚を最大に開き、安定した場所に置いてください。
> 開きかたが足りないと、倒れて、けがの原因となります。

3 **本機をスタンドに取り付ける。**

ブラケット止めねじをゆるめ、ブラケットをスタンドの先端に差し込みます。

> **⚠ 警告**
>
> 取り付けは、2人以上で行ってください。
> 1人で行うと、落下したり、転倒したりして、けがの原因となります。

4 **スピーカーを固定する。**

スピーカーの向きを決め、ブラケット止めねじをしっかりと締め付けます。

ご注意 使用後にスタンドを閉じるときは、スタンドからスピーカーを取り外してください。
（スタンドの閉じかた：ステーホルダーを持ち上げてから、三脚を閉じます。）

故障かな？と思ったら

症　状		点検項目	処　置
電源スイッチを「入」にしても電源表示灯が点灯しない。（電源が入らない。）		電源コードが本体とコンセントに接続されていますか？	本体の電源インレットとコンセントに電源コードを接続してください。
音が出ない。		音量つまみが最小になっていませんか？	音量つまみを時計方向に回してください。
音が歪む。		入力の音が大き過ぎませんか？	音量つまみを反時計方向に回して音量を絞ってください。 音量つまみで調節しきれないときは、入力感度切換スイッチを「音小（▬）」に切り換えて、再度音量つまみで調節してください。
使用中に出力が出なくなる。		直射日光などにより機器の温度が高い、または機器周囲の温度が高い環境下で使用していませんか？	本機の電源を切り、音量を下げてから再度電源を入れなおしてください。また、日陰や風通しのよい場所に移動させてください。
ワイヤレスマイクを使用のとき	受信表示灯が点灯しない。（受信しない。）	ワイヤレスマイクの電源スイッチはONになっていますか？	ワイヤレスマイクの電源スイッチをONにしてください。
		ワイヤレスマイクの乾電池は消耗していませんか？	新しい乾電池と交換してください。
		ワイヤレスマイクと本機のグループ・チャンネル番号が合っていますか？	ワイヤレスマイクと本機のグループ・チャンネル番号を同じにしてください。（☞ P. 10）
	他のワイヤレスマイクの音声を受信する。（混信する。）	ワイヤレスマイクと本機のグループ・チャンネル番号が合っていますか？	ワイヤレスマイクと本機のグループ・チャンネル番号を同じにしてください。（☞ P. 10）
		他のワイヤレスマイクと本機のグループ・チャンネル番号が同じになっていませんか？	ご使用のワイヤレスマイクと、本機のグループ・チャンネル番号を変更してください。（☞ P. 10）
	音が聞き取りづらい。（ノイズが多い。）	ワイヤレスマイクと本機の間に障害物はありませんか？	障害物のない、見通しのよい状態でお使いください。

仕　様

電　　源	AC100 V、50/60 Hz
定 格 出 力	100 W
最 大 出 力	150 W（JEITA TT-4503A）
消 費 電 力	120 W（1 kHz、定格出力時）、43 W（電気用品安全法による）
出力音圧レベル	117 dB（JIS C 5532、定格出力時、1 m）
周 波 数 特 性	80 ～ 20,000 Hz（JIS C 5532 による）
使用スピーカー	低域用：30 cm 防滴コーン型 高域用：ドライバー十定指向性ホーン（水平 60 ˚×垂直 40 ˚）
入　　力	ワイヤレスマイク：2 回路（1 回路ダイバシティチューナーユニット内蔵） 有線マイク　：2 回路、−60 dB *、600 Ω、不平衡 XLR-3-31 相当品／ホーンジャック共用型 予備　：1 回路、−14 dB *／+5 dB *切り換え、10 k Ω、不平衡、 RCA ピンジャック×2（ミキシング）、 ステレオミニジャック（ミキシング）
音 量 調 整	各チャンネル×1
音 質 調 整	低域（100 Hz）：−10 dB ～ +10 dB、高域（10 kHz）：−10 dB ～ +10 dB
アンテナ形式	内蔵アンテナ（外部アンテナも使用可）
歪 率（アンプ部）	5%以下（定格出力時、入力：ライン（−14 dB））
S/N 比（アンプ部）	80 dB 以上（入力：ライン（−14 dB）、30 kHz　LPF）
防 水 性 能	JIS C 0920 保護等級：IP22
使用温度範囲	−10 ～ +50 ℃
仕　　上　　げ	エンクロージャ　：ポリエチレン、黒 パンチングネット：圧延鋼板（亜鉛めっき）、黒（マンセル N1.0 近似色）、塗装 パネル、ねじ　　：ステンレス
質　　量	17.3 kg
寸　　法	420（幅）×540（高さ）×330（奥行）mm

チューナーユニット部

局部発振方式	水晶制御 PLL シンセサイザー方式
受信周波数	806.125 ～ 809.750 MHz（B 型 30 波のうち 1 波選択）
受 信 方 式	スーパーヘテロダイン方式
受 信 感 度	S/N 比 25 dB 以上（10 dB μV 入力、1 kHz 変調、± 4.8 kHz 偏移）
スケルチ感度	16 dB μV
S / N 比	64 dB 以上（60 dB μV 入力、1 kHz 変調、± 4.8 kHz、A カーブ使用）

* 0 dB = 1 V

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

電源コード（5 m、3P-2P 変換アダプター付き）… 1
チャンネル設定ドライバー …… 1
カラーマーク（6 色） …… 1

● 別売品

スピーカースタンド　：KZ-100ST
ダイバシティチューナーユニット：WTU-1820

TOA

TOA インフォメーションセンター
商品や技術など、お問い合わせにお応えします。
受付時間　9：00 ～ 17：00（日曜・祝日除く）

フリーダイヤル（無料電話）
TEL. 0120 - 108 -117
〒665-0043 宝塚市高松町 2 番 1 号
TEL.（0797）72-7567
FAX.（0797）72-1090

商品の価格、在庫、修理およびカタログのご請求については、取扱い店または最寄りの営業所へお申し付けください。

133-12-862-8A